

INTERIOR COORDINATE BOOK

natural style
simple modern style
ethnic style
japanesque style
trad style
elegant style
mix style

make your style!

ABC
HOUSING



…
スタイルある暮らし
はじめてみませんか?
…



INTERIOR
COORDINATE
BOOK



「家を建てる」ということは人生の一大事業のひとつ、そうたびたび経験できない貴重な体験です。けれども、たとえどんなに立派な家でも、ただ単に建てただけでは、暮らしの外側の「ハコ」を作ったにすぎません。この新しい住まいというハコを家族が住みこなし、家族の色をつけ、いきいきとした生活の場として暮らしになじませていくためのひと工夫こそが、インテリアの役目なのです。そして、そのお手伝いをさせていただくのがインテリアコーディネーターの仕事であるとわたしは考えています。建物本体には何かと制限制約が付きものですが、その分インテリアはうんとわがままでもよいのではないのでしょうか。ただちょっとしたコツやルールを知っておくと、家は見ちがえるほどステキに仕上がります。そう、お気に入りのファッションを選ぶように、住まいももっと楽しくコーディネートしたらよいのです。

どこかちがう上級者コーディネートをめざすために…

まずは「こんなスタイルが好き」、という基本のインテリアスタイルを持つこと。そしてベーシックなアイテムを中心に自分らしさをだしていけばよいのです。それこそがあなただけの「My Style」。自分らしさ、それは以前からとても大切にしている単筒であったり、長年のコレクションであったり、ご自身やご家族のイメージカラーであったりするでしょう。そうしたものをぜひ大切にしてください。新しい家は何かと他人行儀な感じがするものです。そのなかに、お好みのスタイルとの兼ね合いを考えた上で、自分らしさをできるだけ盛り込んでいくと、暮らしになじむやれたインテリアが上手にでき上がっていくのです。ご新居の計画が進みそうになったら、モデルホームやショールーム、インテリアショップ、雑誌など、とにかくさまざまなインテリアに触れてみてください。特に数多くのモデルホームを展示している住宅公園は要チェック。外観や構造だけでなく、いろいろなインテリアを実際の空間として体感できるという他にないメリットがあります。選ぶ目とセンスを養うことは、いまからでも遅くはありません。たくさん見て体験して、お気に入りのポケットの中身を増やしましょう。そんなときあなたがつくるであろうインテリアの「スクラップブック」の中にこの冊子も加えてもらえればうれしいと思います。

選び抜いた7つのスタイルをご紹介します…

今回ご覧いただくのは、数多いインテリアスタイルの中から“現在人気の高いと思われるもの”“トレンドを意識した高感度なもの”“オーソドックスで普遍性の高いもの”を絞り込んだ7つのパターンです。最初はばらばらと軽い気持ちでページをめくり何となく気にかかったものをピックアップしてみましょう。そしてつぎにじっくりと細部までチェックして「これだ」と感じるお気に入りを探してみてください。いかがでしょう…あなたの思いにぴったりのコーディネートはみつかりましたか？それでは、あなたにとって最高のインテリアとの出会いがありますように。そしてまたみなさまの思いに合った通りのステキな暮らしが、ここからはじまりますように。

今回のご指導は
インテリアコーディネーターの高浦祥子さん。
ABCハウジングのホームページでもおなじみですね。



高浦 祥子
インテリア コーディネーター

1983年 京都工芸繊維大学卒
大手住宅メーカー2社で商品開発・インテリアコーディネートに携わる。
一般住宅のインテリアコーディネート実績は350件以上。
現在(有)TAKAURA L.C.S.として活動。
その活動は集合住宅のインテリア設計及びモデルルームのインテリアコーディネートから自由設計プランの企画・コンサルティングから一戸建・集合住宅の個別インテリア設計、インテリアに関する講演・執筆まで多岐にわたる。

natural style

自然体の気持ちよい暮らしによく似合うナチュラル・スタイル。

より明るく、よりひろくを視覚的マジックで実現します。

年代を問わず広く好まれるインテリアスタイルのひとつがこの「ナチュラル」。

人気の秘密は親しみやすくかろやかなカジュアルテイストでしょうか。

何よりも空間が明るく広々と見えることはとても魅力的ですし、日本人の暮らしになじんだすがすがしい

白木を多用していることも人気の高さに影響しているのかもしれませんが。

全体的にあまり過剰な装飾は施さず、天然素材の持ち味を活かして仕上げる傾向で

各エレメントも自然なイメージを損なわないシンプルなものを選びます。



美原:三洋ホームズ

天然木の風合いを活かした白木系のフローリングと建具が基本アイテム

まず白木またはほんのり着色してある程度のフローリングやドア・窓などの木部を選びます。一部に白く塗装した木部を選ぶこともあります。タイルなどを床や壁面にあしらう場合も基本はホワイトまたはベージュ系を使います。壁紙・クロスも通常はホワイト・ベージュ系です。珪藻土系の壁材もよく似合います。いずれにしてもイメージは白っぽく明るいハコ。まぶしいくらいの色味となります。

シンプルな意味を上手に理解した照明

あまりに真っ白で、とすれば平板になりがちなこのスタイルに陰影を付け、深みや高級感をプラスするのが照明です。ただしあまりデコラティブなものは合いません。多灯系のもも、木が使われているものや、各々のシェードのカタチがシンプルなものを選び、類似デザインのブラケット照明を並べると、白さにふくらみが出てきます。スタンド照明も上手に利用するとよいでしょう。

写真提供:IDC大塚家具

モダンな家具とも好相性

カタチはあくまでもシンプルに。ソファやダイニングセットの脚部は主として白木系。メープルはよく合いますがチェリー材では少し濃い感じがするかもしれません。

場合によってはクロームメッキなど金属の脚を持つものを選びますが、装飾性の高いものよりもモダンな感じにデザインされたものが、シャープなイメージで新鮮です。

北欧系のモダンな家具ともよい取り合わせです。

ウィンドウトリートメントは軽やかに

このスタイルでは光と風を自然に取り入れようとするため、設けられた窓の仕上げはとて大切。カーテンスタイルはレギュラー（両開きのカーテン）またはブレーンのローマンシェイドがお勧めです。生地素材はコットンや麻などの天然系。折り柄や素材感を活かしたものでなければならず、天然素材100%にこだわらなくてもよいと思います。

色味はここまでかなり白っぽく仕上がっているため、思いきって濃い色を使うのもオシャレです。

天然素材系のラグ

床にプラスワンを考えるなら、天然素材系のラグがお勧めです。素材にこだわってペーパーコードやコットン製のものを選ぶと、ナチュラルな足触りが楽しめるいい感じですよ。

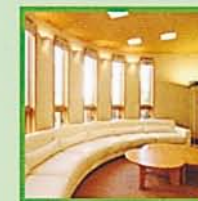
ベンジャミンなどライトなグリーン

ナチュラルスタイルにもうひとつ欠かせないのが、グリーン。ライトでカジュアルなベンジャミンやアジャンタムなど小葉のグリーンが映えます。ゴージャスなトロピカル系のグリーンではイメージがちがってしまうのでご注意ください。また条件が許せば中庭のシンボルツリーがインテリアになる…というのも良いですね。いずれにせよ生きているグリーンであることが基本になります。多少手間でもそれだけの価値はありますから大事に育てましょう。

PLUS ONE ADVICE

差し色を使ってみる。

採光上やスペース性から都市型住宅では明るく広く見えるこのスタイルが採用されるケースが多いようですが、コーディネートによってはかなりいろいろな味付けをすることが可能です。たとえば差し色すなわちアクセントカラーを使うと、かなりモダンで強い印象のインテリアになります。この場合暑苦しくならない程度、少量の色を取り入れてみることから始めます。小物や小さな照明に色をつけてみるのもよいでしょう。ナチュラル・スタイルはおしゃれだけれどニュートラル過ぎて、少し物足りないと感じていらっしゃるあなたにも、ほらこれならぐんと個人的になったと思いませんか。



中百舌鳥:スウェーデンハウス



榎原:住友林業の家



草津:三井ホーム

中百舌鳥:住友林業の家

simple modern style

シンプルなのにどことなく凝った上質のイメージ… シンプルモダン・スタイル。



インテリア雑誌のように個性的… あこがれのスタイルで暮らすよこび。

ここどころ各住宅メーカーも力を入れているインテリアスタイルのひとつがこの「シンプルモダン」。すでに海外のインテリア雑誌などでは定番のスタイルですが、独特の高感度な個性が好みの分かれるところかもしれません。とりわけ白っぽいフローリング、白い壁面に組み合わせられる濃い色のドアや家具のコントラストがはっきりとした嗜好性を要求してくるからです。とはいえ、そのシンプルなのにどことなく洗練されて凝ったイメージはじつに魅力的。人気の高いホワイト・インテリアグッズにもピッタリとはまります。まさにいまの空気を感じるスタイリッシュなインテリアコーディネートです。



りんくう:住友林業の家



名張:積水ハウス



河内長野:パナホーム

ポイントはウenge色

木目を潰すくらい強く塗り込んだ濃い茶色＝「ウenge色」の扱いがこのスタイルのポイントです。この強い色味とナチュラル系の白木のフローリング・ホワイト系の壁とのコントラストが基本イメージを創り出します。ドアは必ずウenge色を選びます。窓・回りぶちなどの木部はウengeもしくは白色塗装にします。床材は大理石にすることもあり、より豪華でクールな仕上がりになります。

金属のアクセントをいかしたシンプルな照明

メインの照明は天井とさりげなく天井直付タイプがおすすめ。円だけでなく角形のものもスタイリッシュな感覚が強調されておもしろいと思います。天井埋込みの照明やスポット照明もアートやオブジェとの組み合わせで考えてみましょう。スタンド照明もとても効果的です。一室多照明はその光と影で空間に深みと趣をもたらすことができるからです。

ガラス天板や大理石の脚

明るいフローリングにアクセントをつける家具はかなり重要なエレメント。全体としてはナチュラルに仕上げているなか、ポイントポイントで個性を主張する家具の役割が特に大きくなるからです。テーブルは天板にガラスを使ったモダンなものが好まれる傾向ですが、脚部分に大理石を使ったややクラシックなものも効果的です。いずれにせよあまり軽めのカジュアルなものでなく、上質感のある家具を入念に選んで揃えていきたいものです。

複雑なテクスチャーのソファで存在感を演出

モダンなスタイルという何かと単純な黒白や濃淡の組み合わせによるモノトーンなら無難、という考えに傾きがちですが、この場合はもうひとつ考えをすすめてみましょう。いろいろなホワイト、さまざまなグレー・ベージュの色味とその手触り・素材感も含めて複雑なテクスチャー・ミックスを考えていきます。ソファは存在感のある家具ですから効果ははっきり出てきます。たとえばよく見るとグレー味のある墨黒の織地のもの、多種の織り糸を使った複雑な織地が重厚感のあるものなどはぴったり。大いにこだわって選んでください。

こだわりのカーテンがとても大切

カーテンもまた重要なポイント。スタイルで言うなら「ローマンシェイド」で決まりです。これはドレープの両開きカーテンと組み合わせてもよいですし、少ししっかりした厚みのあるレースのみを単独のローマンシェイドに仕立てることもあります。ドレープを用いる場合ですが、室内が白くなりすぎないように少し濃いめの色をあしらうと引き締まります。柄は織地程度の無地感覚がおしゃれに見えてよいと思います。

モダンインテリアのためのグリーンそしてポット

「ストレッチャーノンリーフ」「サンズベリアステッキー」といったグリーンはモダンインテリアによく使われているグリーンです。おもしろい葉型がインテリアのモダンな印象をより引き立てます。この場合鉢カバーも重要。最近では鉢カバーも種類が豊富で選ぶ楽しみがありますが、このコーディネートにはスクエア型で黒・白・ベージュなどの陶器製の商品がおすすめです。



PLUS ONE ADVICE

ひと味違う「窓」を演出するディテール。

カーテンそのもののスタイルや素材選びとともに、少しこだわってみたいのがカーテン小物。カーテンを束ねるタッセルもレールも多種多様で楽しく選べます。たとえばタッセルはカーテンと同じ生地で作るのではなく、ちがった種類のものを選ぶ。金属製の窓枠に取り付けるものにするイメージは大きく変わります。レールも従来の単純なものでなく、鍛造のデザインものにしてみるととても新鮮です。細部にもきまこまかくこだわるとより引き締まった上級者コーディネートのでき上がります。

ethnic style

憧れのアジアリゾート感覚を日々の暮らしに… エスニック・スタイル。

神秘と癒しのイメージが世界を夢中にさせています。

インテリアの最先端に行く世界の人々がこぞって注目したことからブームとなり、やがて広く愛されてひとつのスタイルとして確立した

「アジア・エスニック」。エスニックといえばアフリカ・中南米・アジアなどの幅広い地域

それぞれの民族風土に根差した独自性が再発見され、称賛を浴びていますが、中でも特に「アジア」が注目の的なのです。

現在欧米のセレブレーションに愛される高級リゾートのほとんどがアジアに含まれるということにも関係しているのでしょうか。

キーワードは「神秘と癒し」。ゆったりとした時間を過ごす極上のホームリゾートのために、このエスニック・スタイルはいかがでしょう。



千里:三井ホーム



久御山:三井ホーム



草津:旭化成ヘーベルハウス



+1 PLUS ONE ADVICE

見せる収納で
アジアな癒しの世界。

パリ・タイ・ベトナムなどのスーベニールや小物雑貨をたくさんあしらって雰囲気を盛り上げたいこのスタイル。基本的にあまり大きな家具は置けませんから、小物はどう飾るのかという問題が出てくるかもしれません。「見せる収納」という言葉がありますが、ここでもその感覚で壁面に作り付けの飾り棚を設置してはいかがでしょうか。チーク系の木製小棚を並べたり、「ニッチ」のような埋め込み式の棚を並べてみてもおもしろいかもしれません。



千里:ダイワハウス

チーク材のイメージで建具を選ぶ

広大なアジアの中でも特に注目したいのが、バリ・タイ周辺のスタイル。最近ではベトナムも人気です。いずれもヨーロッパの植民地だった関係もあって、ほどよく洗練されたインテリア感覚が熟成されているのかもしれませんが、そしてこのあたりに点在する高級リゾートホテルがこのスタイルのひとつのお手本。ただひたすらゆったりと過ごすという贅沢な時間の舞台装置としてのインテリアをよく心得ていると感心します。あたたかい国ではチーク材の産出が多いからでしょうか。このエスニック・スタイルでは、床やドア・木部には濃い色調が似合います。

ベージュ系のざっくりした「織」の壁クロス

洗練された「野趣」とでもいうべきアジアな無国籍感覚を木部のチークカラーとともに醸し出すために大切なものが、壁面のクロス。ぜひとも「織」がはっきりとわかるような少し荒い感じの素材を選んでください。色はベージュがかったものがよいと思います。この組み合わせだけでもかなりアジアな雰囲気に なります。このほか素材感のある壁紙ということでは「珪藻土クロス」・「和紙クロス」も検討の対象となりますので、メーカーの見本帳でいろいろご覧になってください。

くつろぎの時間には「白熱灯」のあかり

照明計画のポイントは「白熱灯」。エスニックに蛍光灯のあかりはまったく合いませんので、ご注意ください。このスタイルは少し暗めの方が雰囲気が出ますので、はっきりと明るい蛍光灯よりも調光しやすい陰影ある明るさが得やすい白熱灯照明をぜひおすすめしたいのです。調光器をつけ、必要に応じて光量をコントロールすることで、よりリラックスできる美しい空間が生まれます。デザインは籐をあしらったもの、鉄や真鍮をあしらったもので少し古色がかかっているようなものがよいと思います。

シンプルな家具を選ぶと大人っぽい抑制されたエスニック

布貼りのソファで籐をあしらったものや革を編んだものがリゾート感覚でぴったりなのですが「100%アジアン」よりもむしろ「ほのかに感じさせるエスニック」という大人のテーマをたてたいなら、家具類はチーク調の濃い色味のシンプルな家具を選ぶに止めます。あとは小物のあしらいで雰囲気づくりを。ただ床に座るといってアジアなスタイルが根本にありますので、あまり背の高い家具は避けましょう。あくまでもゆったりとしたロースタイルで揃えていきましょう。

カーテンは洋風…だからシェイドという選択

スタンダードなカーテンはどうみても純洋風ですから選ばないようにします。すだれの感覚に近いものがよいのですが、たとえば「ブレーン・シェイド」を選ぶと失敗がありません。ざっくりとした生地の麻系の素材で仕立てたシェイドは不思議なほどエスニックにピッタリです。また夏場なら麻系の透ける生地を何枚も重ねてあしらうとロマンチックでゴージャスな雰囲気づくりにも効果的です。

人気のキリムも使ってみる

エスニックなインテリアエレメントのなかで人気の高いラグ「キリム」。植物染料から生み出された天然の色味と素朴な手織りの味わいは多くのファンを引きつけています。どれひとつとして同じものがないこの手づくりラグがこのスタイルにもよくなじみます。専門店などでひとつひとつ選ぶのもまた楽しみかもしれません。



写真提供:IDC大塚家具

japanesque style

単なる「和風」とはひと味違うモダンアレンジ…ジャパネスク・スタイル。



欧米から見た日本という逆説的なスタイル。

「ZEN」スタイルや「和」スタイルとして海外で人気の高いスタイル。

この「ジャパネスク・スタイル」は日本固有の伝統様式=単なる和風をこえていまやグローバルな普遍的な美意識になりつつある非常に今日的なインテリアスタイルです。

ですから、決して和室や和空間のための専用スタイリングではなく、ソファでくつろぐリビングも椅子で食事をするダイニングも、ベッドルームも、このスタイルでコーディネートできるのです。

要は「和のエッセンスをモチーフ」としてバランスよく取り入れ、現代の生活スタイルに融合させるということなのです。

アクセントには伝統家具もよい

全体的にナチュラルですから、もう少し引き締めたとお考えなら迷わず伝統的な日本の家具を取り入れてみてください。仙台筆筒を代表とするもの、舟筆筒や階段筆筒あるいは桐筆筒などが、空間のアクセントとしてふさわしいと思います。また「畳コーナー」を設けてこたつなどをプラスすることも考えられます。

おすすめはモダンな「シャープ・シェイド」

本来の和風ならカーテンではなく、障子戸を取り付けますが、ジャパネスクはこだわりません。障子もいいですし、カーテンでも工夫によっては美しく仕上がります。特におすすめするのは「シャープ・シェイド」というスタイル。すだれに似たイメージのモダンなシェイドで、これをレースの替わりにして、ヒダの少なめのドレープカーテンを組み合わせるといいでしょう。

障子・ふすま・格子戸のイメージ

数ある「和」のモチーフの中でも障子・襖・格子戸などあるいは掛け軸・屏風などの表具系統の伝統的なイメージは大切にしたいもののひとつです。空間をゆるやかにしきる和室の独特の感覚も木製や布製の「スクリーン」としていかしたり、床の間のような飾り棚をつくり、色紙で飾ったりという工夫も凝らしてみてください。ジャパネスクな雰囲気が出てきます。



糟原:三井ホーム



千里:積水ハウス



名張:三交ホーム



千里:パナホーム



草津:パナホーム

白木の深いイメージのジャパネスクがおすすめ

床やドアは主として白木または少し塗装を掛けたナチュラル色を選びます。あまり濃い色使いをしますと無国籍なアジアン感覚に近づいていきますので、ここでは中間色までを限度に、うすい透明感のある日本風を強調したいと思います。クロスはホワイトやベージュを基本に、日本の伝統色をアクセントクロスに使ってもよいでしょう。素材も充分吟味。織柄の美しいものや珪藻土クロス、和紙のクロスがよく合います。

主照明はあまり照明を意識させないもの

存在感のある多灯照明は「洋」のものです。基本的には天井にピッタリと付く直付けタイプの白木調照明を選びましょう。和紙を使ったものもよく、行灯を思わせる和風スタンドなどは大いに利用できます。

全体的には低く明るく

選ぶ家具は白木からうすい塗装のかかったナチュラルな家具で、いわゆるローライフ感覚の座面の低い椅子やテーブルが中心になります。北海道や飛騨のうすい色味の民芸系の家具もよいと思います。懐かしい感じのするやさしいデザインの家具を中心に、ややモダンな味わいのものまで意外に多くの家具と似合ってくるのが不思議です。

PLUS ONE ADVICE

濃い色の個性的なジャパネスク。

今回は特にうすい色味の深いジャパネスクにこだわりましたが、このほかにも墨絵の世界のように個性的な黒っぽいモノトーンのタイプ、古民家風あるいは大正ロマン風の濃い色の木部と白い壁を特長とする和調も数多くありますので、こちらもご参考になさってください。



りんくう:ダイワハウス



美原:パナホーム



千里:エス・バイ・エル



久御山:三井ホーム

trad style

ヨーロッパやアメリカの伝統的スタイル… シックでラグジャリーなトラッド・スタイル。



威風堂々、欧米の伝統息づく偉大なオーソドックス・スタイルの英雄。

これぞインテリアスタイルという不変の価値を持った欧米伝統のインテリアが「トラッド」です。すなわちトラディショナル。誰もがその歴史の重みを知り、どんな時代にも愛され、流行に流されない…家を建てるなら、「いつかはトラッドな家を…」と望んでいらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。イメージは必ず大統領の執務室。ホテルのロビーや会社の重役室にも多いタイプです。伝統に彩られた上質なステータス感を大切に上品なコーディネートをめざしましょう。

床材は木目を活かしたミディアムからダーク

磨き上げられた床というものは、間違いなくよく調えられた住まいのひとつのシンボルです。このスタイルではそうしたイメージを強調するべく、比較的濃い色のフローリングで木目のわかる重厚なタイプをおすすめします。ミディアムからダーク色のもの、特に少し贅沢なムク材のフローリングなら申し分ありません。

より重厚感をくわえる腰板パネル張り

クロスはベージュ系の無地を基本としますが、地模様程度の柄の入ったクロスもよいと思います。ぜひ伝統的なパターンを選んでください。そして壁面の演出で忘れてならないのが、「腰壁パネル」。壁面の下部に木質系のパネルを張るという手法です。これは欧米での壁面のオーソドックスなデザインで重厚感と落ちつきが演出できるためこのスタイルにはうってつけ。カラーはフローリングなどの床の色に合わせます。

華やかすぎないけれども美しい照明

木をあしらった品のある照明機器がこのスタイルにもよく合います。シャンデリアもゴージャスさがピッタリですが、クリスタルビーズなどが華やかについたものよりは、ややシンプルな、真鍮系の金具とシンプルなシェードで構成されたようなタイプがさらに相性がよいように思います。これらに重厚なデザインのスタンド照明と壁面のブラケット照明を加え、複雑で美しい光の演出をします。なぜなら上質な空間設計とは、巧みな照明計画に深くかかわっているものだからです。



りんくう:一条工務店



りんくう:一条工務店



中百舌島:セキスイハイム



千里:三井ホーム



河内長野:一条工務店

トラディショナルな様式美を活かした家具

家具はトラッドな様式のシリーズからセレクトします。ソファ・ダイニング・チェストなどはシリーズモノとしてよい家具がありますので、選びやすいかと思えます。基本はあくまで木製です。さてソファですが、ゴージャスだから革張り、とは決まっています。上質な革はもちろん魅力的ですが、布張りのものにも革張りに負けない雰囲気のあるものがたくさんあります。とくにインポートものには素敵なものが多く要検討の価値あり。コーディネートの幅を拡げ、個性を発揮するには布張りソファが最適です。

「バランス」を加えた重厚なカーテン

カーテンは伝統的なパターンでヒダをたくさんとったドレープと重厚なレースのダブルが基本です。カーテン上部には「バランス」と呼ばれている装飾布をあしらうとさらに重厚な趣になりますので特におすすめします。メンテナンスは多少手間ですが、トラディショナルな雰囲気づくりには効果絶大です。カーテンタッセルも組み紐調などのクラシックなものが似合います。

上級照明計画「ピクチャー・ライト」

油彩などのアートや家族の写真などで壁面をデコレートすることはこのスタイルによくあいます。額縁=フレーム選択が大切ですから、伝統的なデザインから慎重に選びます。それとともにぜひおすすめしたいのが、「ピクチャー・ライト」。アートなどの額の上あるいは両サイドにブラケット照明をプラスして、その部分を浮かすように照らすのです。これは絵も大変引き立ちますし、平面もより重厚に演出できる上級者のアイデアです。

PLUS ONE ADVICE

趣味のよいパーソナルチェアをひとつ。

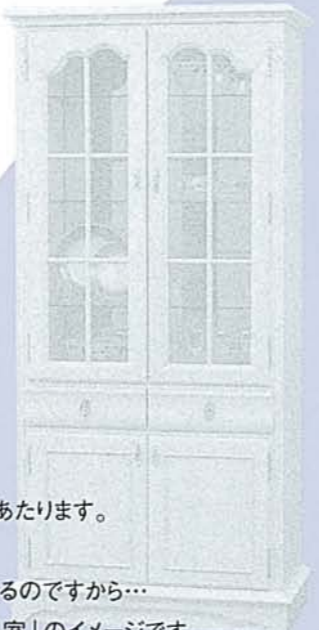
インテリアの先進国には「パーソナルチェア」という考え方があります。その人にとっての最良の掛心地を考えるなら、好きな椅子はひとりひとり違って当たり前、だからくつろぎの椅子はひとりひとつ。それぞれ種類が違っていいという考え方です。そこでまずご主人のお気に入りの座り心地をひとつ、リビングに加えてみませんか。リクライナーのようなタイプでもよいのです。セットにこだわりすぎるのではなく、ちょっとひと味加えてみるとインテリアもずいぶん変化に富みます。

elegant style

上品で華やか、装飾的でゴージャスなエレガント・スタイル。

優美を極める…ほんものの貴婦人の華やかさを求めて。

ファッションの世界にはフェミニンとマスキュリンという対語があります。インテリアもそれと同じ。トラッドがマスキュリンなら、フェミニンがこの「エレガント・スタイル」にあたります。これはなにも「エレガント」が女性向き、といっているわけではありません。女性にトラッドをお好みの方も多く、男性にエレガントが心地いいと思われる方も多くいらっしゃるのですから…ただ先に私は「トラッドを大統領の執務室」に喩えましたが、それなら「エレガントは貴婦人の私室」のイメージです。私邸にぴったりなパーソナルなイメージを前面に出して華やかかつよくコーディネートしてまいります。



千里:アキュラホーム

よりエレガントな ホワイトベースのエレガント

ドアや木部造作材は今回はホワイトを基本として進めます。よりやさしく、上品であり、やわらかな高級感もあると思うからです。ひとことにホワイトといってもその色味も質感もじつにさまざま。びかびかの鏡面仕上げもあれば、マットで木目が透けるような仕上げのものもあります。色味では青みの白、黄みの白、グレーみの白もあります。これはお好みでよいと思いますが、今回はよりエレガントなアイボリーホワイトの鏡面仕上げをイメージとしてお話ししていきます。

明石:ダイワハウス

床は大理石かフローリング

床材は一般的にはフローリング、色目は白木調のナチュラル色か、やや赤みのチェリーのフローリングでミディアム色。後者の方がメリハリが利くのでおすすめです。もっとゴージャスにとおっしゃる場合の選択は、大理石張り。この場合冬のために床暖房を装備するとよいでしょう。なお玄関のみを大理石にしてもとても素敵。内部に対する期待のふくらみ演出になります。

ケーシングが映える色味のクロス

パステルかベージュのクロスならホワイトのケーシング(窓枠)や回りぶちに映えます。海外のホワイト・インテリア実例でもクロスの多くは色物を使っています。

一点ものも多い クラシックなシャンデリア

やはりシャンデリアは必要でしょう。それもクラシックなクリスタルビーズやガラスをたくさん使ったきらきら輝くタイプをコーディネートしてみたいと思います。最近では少し商品数が減ってきたように思いますが、探せばインポートなどでよいものがたくさんみつかります。また照明機器を使わずにおりあげ天井などに照明をかくし、より一層やわらかく上品なひかりの演出をすることもおすすめです。

猫足・ホワイト・鏡面仕上げ・花柄

エレガントな家具の条件はいろいろありますが、これもやはりインポートのショッポなどで現品を見てお決めになるとよいと思います。ただし日本製とはサイズが違ってたりします。大きさの実際は設計図面持参でクリアできますが、特に座面の高いチェアにはご注意ください。ショッポでは靴を履いたまま座らずに、必ずスリッパで座ってみてください。小柄な方は座面調整が必要な場合もありますので、ショッポと充分相談します。

「バルーン・シェイド」なら完璧

華やかなスタイルカーテンが似合います。無地でたとえばモアレのあるようなドレープカーテンやレースでいいのですが、バルーン・シェイドなどのスタイルはエレガントなインテリアのためのものです。ぜひ試してみてください。窓のサイズを問わず床までたっぷりカーテンを掛けることもエレガントな演出です。また上品で上質な雰囲気のためにカーテンボックスをぜひつくりましょう。

大理石の花台に大きな フラワーアレンジメント

薔薇を代表とする花はこのスタイルの大きなテーマのひとつです。花柄にこだわる必要はありませんが、花を飾ることは必要条件です。テーブルフラワー以外にも、ニッチを造ったり、大理石の花台を置いたりして飾りましょう。伝統的なアレンジスタイルの最高のステージです。

久御山:三井ホーム



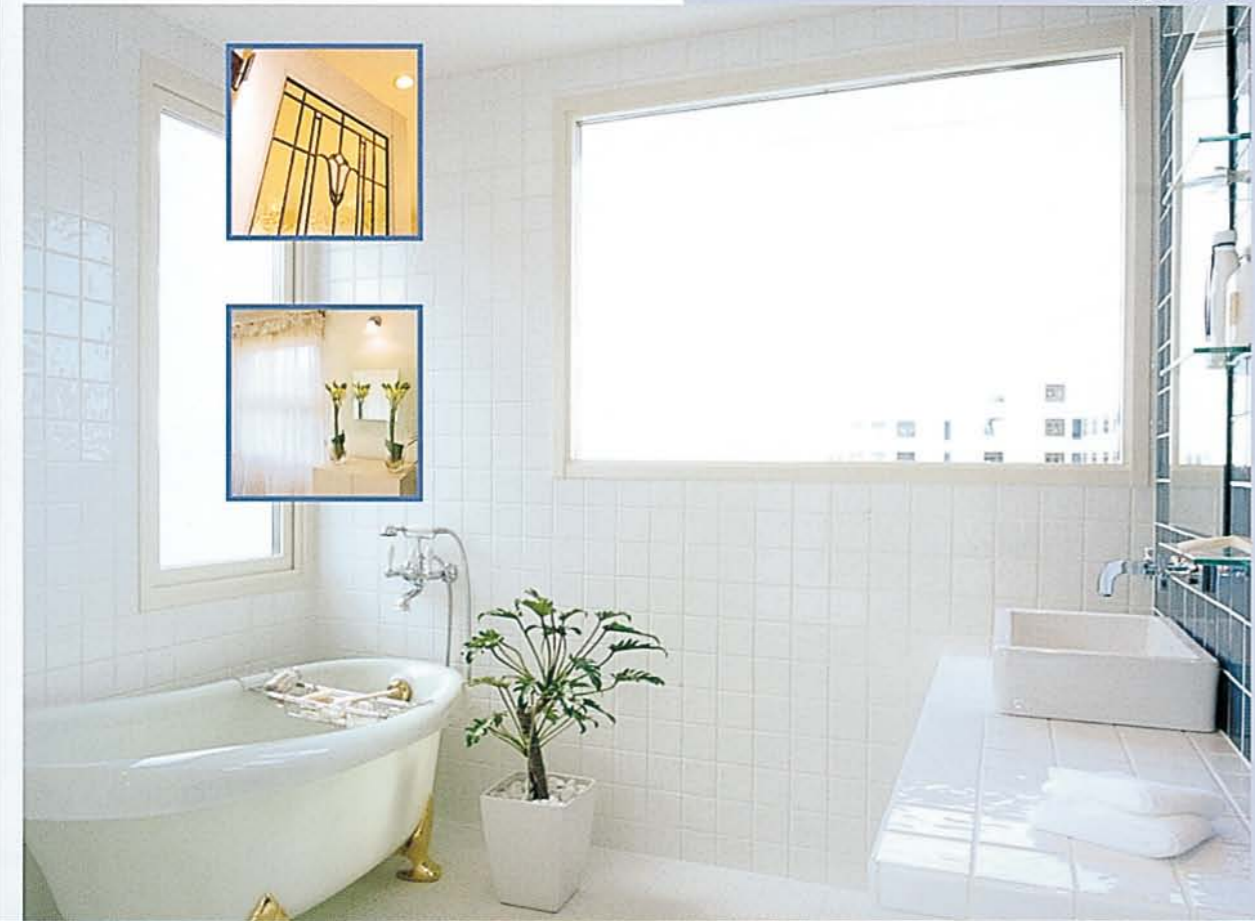
千里:ロイヤルフォートスウェーデン



りんくう:三井ホーム



千里:三井ハウス



PLUS ONE ADVICE

華奢で美しい
バスルームをつくる。

映画で見た「猫足のバスタブ」に魅かれていらっしゃる方は多いと思います。鏡やガラス、化粧台といったものが装備され白っぽく仕上げることの多い水回り、モダンなインテリアのお宅であっても案外「エレガント・スタイル」が似あうものです。トータルで調えることももちろん大切で美しいのですが、遊びの部分としてちょっと替えてみることもよいと、私は思います。さて華奢で美しいバスルーム…バスタブのカタチ、シャワーヘッドやカランのデザイン、シャンプーボトルやブラシに至るまで凝りに凝ってみてはいかがでしょうか。

mix style

基本となるスタイルを敢えてくずした上級者のテクニック… ミックス・スタイル。

おしゃれなインテリアスタイルは素敵だけれど、どこかよそ行きの表情。すっきり決まりすぎ、とお考えの方はいらっしゃいませんか。確かにファッションでもお気に入りのブランドで全身決めているのは素敵だけれどどこか窮屈。本当にオシャレな人は自分らしくわざと着崩していたり、違うブランドを上手にプラスして着こなしていたりするものです。インテリアももっと自由に楽しみたい、そんな上級者のコーディネートをめざすなら、迷わず「ミックス・スタイル」をおすすめします。この「ミックス・スタイル」はメインとなる基本のスタイルをひとつ決めて、それにもうひとつないふたつの「異なったインテリアテイスト」をプラスしてバランスをとるのが基本です。この際、色味の統一も考えると失敗がありません。今回は二つの人気パターンを紹介しましょう。

classic modern

モダンをベースにしながらかラシックが香るこのリュクス感覚が新しい「クラシック・モダン」。

いま最も新しいインテリアコーディネートのひとつがコレ。最先端のインテリアショップでインテリアマガジンできっと目にされたことがあるはずです。そしてこの従来のすっきりと整理された統一のイメージを持つインテリアとは少し違うテイストにお気づきでしょうか？気に入ったものを自由に組み合わせて、彩りやイメージで統一感をだす、上級者のコーディネート「ミックス・スタイル」がこの「クラシック・モダン」の基本になっています。おもちゃ箱のようなワクワク感が醸し出されるように、ひとつひとつの吟味された取り合わせでゴージャスな雰囲気づくりをめざします。



伊丹:セキスイハイム



中百舌鳥:三井ホーム



中百舌鳥:積水ハウス



資料提供:マナトレーディング株式会社



千里:三井ホーム

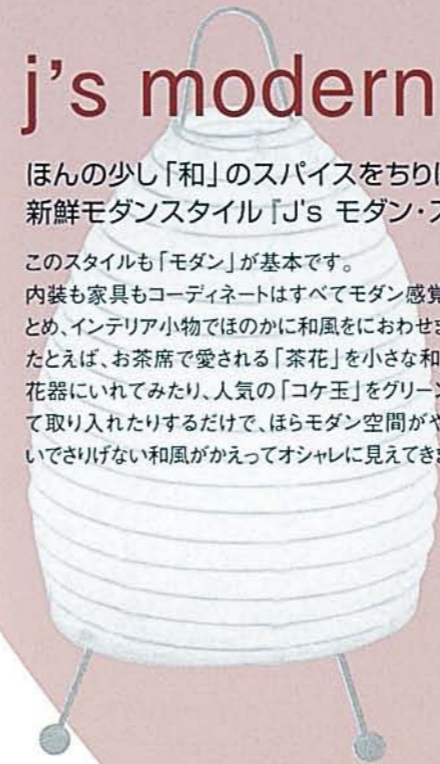


千里:セキスイハイム

j's modern

ほんの少し「和」のスパイスをちりばめた新鮮モダンスタイル「J's モダン・スタイル」。

このスタイルも「モダン」が基本です。内装も家具もコーディネートはすべてモダン感覚でまとめ、インテリア小物でほのかに和風をおおせします。たとえば、お茶席で愛される「茶花」を小さな和陶の花器にいれてみたり、人気の「コケ玉」をグリーンとして取り入れたりするだけで、ほらモダン空間がやわらいでさりげない和風がかえってオシャレに見えてきます。



写真提供:IDC大塚家具



姫路:三井ホーム



伊丹:ダイワハウス

北欧系家具にも好相性

スκανジナピアの白木の家具を中心にコーディネートする「北欧モダン」というインテリアがありますが、これにもとりわけこの「J's モダン」は似合うと思います。

和紙の照明もいい感じ

あくまでもさりげなくが大切。たとえばモダンなチェストの上に和紙のシェードを持った小さなスタンドをあしらうのもよいアイデアです。このスタイルなら、基本のモダンをそのままにして、小物の味付けでいろいろなミックス・スタイルに簡単に挑戦できそうです。いろいろなチャレンジし、インテリア感覚をみがいていくのにもぴったりですね。ぜひ試してみてください。



千里:ダイケンホーム

基本のコーディネートは「モダン」系

このクラシック・モダンの基本コーディネートはモダンですっきりした空間。どちらかという白っぽい仕上がりの中装に、ウェンゲ色の家具を配し、これに存在感たっぷりの特徴あるインテリアエレメントを加えていきます。お好みのものをつぎつぎとやや盛りだくさんにプラスしていく感覚です。

シャンデリアのような装飾的な照明

特にシャンデリアのようなデコラティブな照明器具はこのコーディネートのポイントになります。メインの天井付け照明はもちろんのこと、スタンドやブラケット照明も、グラスビーズやアクリル・シェルなどを華やかに取り付けたクラシックなタイプを選べばゴージャスな雰囲気のでき上がります。

カラーはブラックやパープル・レッドなど濃い色調に

イメージカラーとしてはマット系の濃い色。黒みのレッド系を中心とした個性的なカラーリングをコーディネートカラーやアクセントカラーとして取り入れます。ガラスの花入れなども黒や紫を選びます。もちろんカーテンやクッション、ラグなども濃い色味でゴールドのアクセントモールや華やかなビーズのついたものを選ぶとよいでしょう。変わったところでは、黒や濃い紫のテディベアなどのぬいぐるみも似合います。このスタイルでは、全体では個性的でグラマラスな大人のかわいらしさといったイメージを大切にします。

迷っっているあなたへの **プロ****フェ****ッ****シ****ョ****ナ****ル****・****ア****ド****バ****イ****ス**

家づくりはあらゆる面で決定を迫られ、そのたびに迷うことばかり。でもひとつひとつの決定が良い住まいへの礎になるのですから、迷うこと・決めかねることは決して無駄にはなりません。じっくり迷っていいのです。…とはいえ時間に限りがあることですから、ある程度の思いきりは不可欠。そんな時のご参考になればと考えてみました。きっとお役に立つと思います。

1 「大切なのはいま」と割り切ることも必要
 たとえば間取りひとつにしても、いろいろなことに対応できるようにしようとする、とりあえずが多くなり、すべてが中途半端になってしまう、というのはありがちなことです。インテリア計画も同じです。そもそも住まいというものは、住む人の人数や健康状態などの家族環境によってその時々心地よさがかわってくるものです。新築時に幼い子どもがいても10年20年たてばやがて中学生になり大人になります。すぐに大人になるのだから、幼児のいまは我慢しておく、というのはちょっとどうかと思います。「どんなときにも対応できるオールマイティーを考え過ぎない」こともときには必要です。あまり遠い先のことより、10年～15年くらいの中期的スパンを見据えつつ、現在のライフスタイルをより大切にすることをおすすめしたいと思います。ただひとつ私が経験的にいえるのは、「間取りをシンプルにしておくと、それだけあとのインテリアエレメントの味付けで変化をつけやすい」ということ。迷うくらいならいっそシンプルな間取り・シンプルなインテリアにした方が、後々いろいろな意味で対応しやすいということをぜひ覚えておいてください。

2 リフォームしやすいところは大胆に選ぶ
 現在の住まいで内装の基本は床フローリング・壁クロス貼ですが、実は壁のクロス貼工事はリフォーム工事のなかではもっとも基本の工事。家具の移動をすませて

おけば工事は一日程度でできる簡単なものです。もちろん将来的な変更もごく簡単に行えます。ですから、それを踏まえて、壁クロスは色柄の選択もアクセントクロスなどを個性的に使う手法も少し大胆なくらいに試してみるとよいと思います。一方床フローリングの張り替えはやや大がかりな工事。またそれ自体10年20年以上の耐久性のある部分ですから、慎重に選ぶことをおすすめします。長い目で見ると、予算が許せばムク材など上級素材を選ぶこともよい選択だと思えます。

3 テーマづくりとインテリアエレメントについて
 きわめてシンプルな間取りであっても、インテリアエレメントを充実させていくと想像以上に凝った印象のしゃれた住まいに仕上がるものです。ですからインテリアの「テーマを決める」ということはとても大切。ここにも迷う要素がでてきます。けれどもこれもまた本体がシンプルであれば、雰囲気づくりの部分はあとでも変更しやすいということをおもいだして、大胆になってください。もしも迷って決めかねるのなら、全体の雰囲気や大物家具などはシンプルでモダンなものあるいはナチュラルなもの、ニュートラルなものにしておきます。その上でアクセント家具・小型照明・カーテン・アート・グリーン等比較的手軽で小さいインテリアエレメントを、「モダン」「ジャパネスク」「エスニック」などお好みのテーマに沿って入念に選び空間を作り込んでいくと、統一のとれた美しいインテリア

になります。小物ならば家族環境とはあまり関係がないので、その時々季節感や気分・機能によって変化をつけていろいろ自由に楽しめると思います。

4 インテリアのサンプル
 インテリアのテーマ決定に、実際のコーディネートを見ることはよい参考になります。雑誌で探したり、インテリアショップ巡りをするのも有効ですが、とりわけ家一棟まるごと実物で見ることでできるモデルホームのインテリアはとても参考になると思います。各住宅とも専属インテリアコーディネーターが工夫を凝らして最新の提案をしているものがほとんどだからです。特にたくさんの住宅メーカーが集い、あらゆる種類のテイストを一口气に体験できる住宅公園はインテリアの貴重な情報源。テーマ選びに迷ったときにも、上手に利用するといいと思います。

5 デザインだけでは長く使えない
 いま世の中には本当にものがあふれていて、家具店・インテリアショップにもあらゆるテイストの商品が並んでいます。そして大切な価格の面でもほとんど同じデザインの商品が幅広い価格帯で存在し、何かと迷うのもっともだと思えます。ご自分なりの価値観とご予算を加味し、具体的イメージを持ってインテリア空間を作り込んでいきましょう。たとえばインテリア雑誌には実にいろいろなインテリアスタイルが掲載されていますが、かなりの部分にその年のトレンド…

つまり流行というものが反映されます。でも実際暮らしていく上でその年その年の流行に常に合わせていけるわけでも、それが快適なわけでもありません。あふれる情報にまどわされるのではなく、ほんとうに自分の欲しいものを納得いくまで探して購入することをおすすめします。特に家具は毎日触れるものですし、見かけだけではなくその手触り・使い心地も大変重要。機能性も重視するべきですから、デザインだけでなく機能性と価格の比較もとても大切になります。

6 専門のインテリアコーディネーターに相談する
 ご自分で決めかねる場合は、客観的な目で診断できるインテリアコーディネーターにプランニングをお任せいただくのもひとつの方法です。さまざまなインテリアプランのなかからあなたのご家族に一番ふさわしいものをご提案できますし、ご自分たちだけでは解決できないこともプロの目的確にアドバイスできると思います。多くの場合は、建築工事を依頼する住宅メーカーや設計会社などでインテリアコーディネーターを紹介してもらえますし、インテリア設計料がどのくらいかかるのかも知ることができます。住宅公園などでモデルホームをご覧になると、あなたが疑問に思うことをあらかじめ住宅メーカーに相談してみるとよいでしょう。

あなたにぴったり!?
インテリア・スタイル・セレクト
YES! NO! チャート